

教科	科目	単位数	対象学年
国語	現代の国語・論理国語	2・1	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 語彙・用語など国語学習の基礎知識を身につける。</li> <li>② 説明的文章の読解を通して論理的思考を身につける。</li> <li>③ 文学的文章の読解を通して人間の真実に目を向ける。</li> <li>④ 短詩形文学の表現世界を味わう。</li> </ul>
目標を達成するための留意点	<p>授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。</p> <p>家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける</p>
使用教科書	『現代の国語』（筑摩書房） 『言語文化』（未定）
使用副教材	『グラン現代文』（尚文出版） 『即戦ゼミ 新国語問題総演習』（桐原書店） 『新国語便覧』（第一学習社）
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語知識 ・現代文・古文・漢文に関する基礎知識（漢字の読み書き・語彙・用語・口語文法・文語文法）の確実な理解・運用の確認をする。</li> <li>○論説文・評論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的文章の読解を通して、社会科学・人文科学・自然科学における知識の吸収と思考のあり方を学習する。</li> <li>・全体の論展開を把握し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する・</li> <li>・自分の意見、考えを論理的に表現することを学習する</li> </ul> </li> <li>○資料・データ・実用的文章・実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考する力を養い、・実社会との関わりを考える</li> <li>・論理的な文章や実用的な文章について、根本から問い直し、現代的な視点から論理的思考を育む</li> </ul> </li> </ul>

2 指導計画 \* 「現代の国語」「言語文化」は教材を横断する場合がある

学年	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
高1	国語総合	評論	「サイエンスの権威、アートの権威」等																																				
		実践	「質問する力を育てよう」等																																				
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		言語知識																																					
		資料・データ	「わかっていることないこと」等																																				

ここに進度表を入れるのでスペースを空けてください  
（「授業計画」は進度表で代用します）





教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史	歴史総合	2	4

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する力を養う。
目標を達成するための留意点	年表、地図その他の資料の活用を通して世界の歴史の理解を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を育んでいく。また世界の歴史の理解を踏まえて、現代の課題を政治・経済・社会・文化・生活・宗教など様々な観点から考察できる力を育んでいく。世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し、自己の属する国や地域の理解の上に、国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質、態度を養う。
使用教科書	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社)
使用副教材	現代の歴史総合みる・読みとく・考えるノート (山川出版社)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>第Ⅰ部 近代化と私たち</p> <p>第1章 結びつく世界と日本の開国</p> <p>1 18世紀の東アジアにおける社会と経済      2 貿易が結んだ世界と日本</p> <p>3 産業革命      4 中国の開港と日本の開国</p> <p>第2章 国民国家と明治維新</p> <p>1 市民革命      2 国民国家とナショナリズム      3 明治維新</p> <p>4 日本の産業革命      5 帝国主義      6 変容する東アジアの国際秩序</p> <p>7 日露戦争と東アジアの変動</p> <p>第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>第3章 総力戦と社会運動</p> <p>1 第一次世界大戦の展開      2 ソヴィエト連邦とアメリカ合衆国の台頭</p> <p>3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制      4 世界経済の変容と日本</p> <p>5 アジアのナショナリズム      6 大衆の政治参加      7 消費社会と大衆文化</p> <p>第4章 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>1 世界恐慌の時代      2 ファシズムの伸長と共産主義      3 日中戦争への道</p> <p>4 第二次世界大戦の展開      5 第二次世界大戦下の社会</p> <p>6 国際連合と国際経済体制      7 占領と戦後革命</p> <p>8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向      9 日本の独立と日米安全保障条約</p> <p>第Ⅲ部 グローバル化と私たち</p> <p>第5章 冷戦と世界経済</p> <p>1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化      2 東西両陣営の動向と1960年代の社会</p> <p>3 軍拡競争から緊張緩和へ      4 地域連携の形成と展開</p> <p>5 計画経済とその波及      6 日本の高度経済成長      7 アジアのなかの戦後日本</p> <p>第6章 世界秩序の変容と日本</p> <p>1 石油危機      2 アジア諸地域の経済発展      3 市場開放と経済の自由化</p>



教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	4(1+3)	4年生

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図形の計量」の内容を習熟させるとともに、既習事項を空間図形の様々な計量に適所で利用できるようにする。</li> <li>・統計の基本的な考えを理解するとともに、データの分析を通じて全体の傾向を把握できるようにする。</li> <li>・「数学Ⅰ 数と式」の内容を発展させ、より高度な数式処理技能を習熟させる。</li> <li>・図形を方程式で表し、図形の性質を調べる方法を学ぶことにより、数学の多様な考えを理解させる。</li> <li>・三角関数、指数関数、対数関数など様々な関数の存在を知り、関数についての理解を深める。</li> <li>・多項式関数を対象に、微分法の基本的な概念を理解させる。</li> </ul>
目標達成のための留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の復習を中心とした家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を計画的・意図的に行うこと。</li> <li>・生徒の主体的な学習を促すため、AL型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。</li> </ul>
教科書	数学Ⅰ(数研出版)，数学Ⅱ(数研出版)
副教材	4STEP 数学Ⅰ 完成ノート(数研出版)，4STEP 数学Ⅱ 完成ノート(数研出版)
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
学習内容	<p>[数学Ⅰ]</p> <p>第3章 図形の計量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな図形について，辺，角，面積，体積などの計量や面積比・体積比について学ぶ。</li> </ul> <p>第4章 データの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計の基本的な考え方を理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。特に，データの散らばり，相関関係について学ぶ。</li> </ul> <p>[数学Ⅱ]</p> <p>第1章 式と証明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の除法，分数式の計算，等式・不等式の証明について学ぶ。</li> </ul> <p>第2章 複素数と方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の範囲を複素数まで拡張し，2次方程式の判別式の意味や解と係数の関係について学ぶ。</li> </ul> <p>第3章 図形と方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座標・方程式を用いて基本的な平面図形の性質や関係を考察する。特に，点と直線の距離，直線・円の位置関係や方程式，軌跡と領域について学ぶ。</li> </ul>

	<p>第4章 三角関数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角の拡張により三角関数を定義し、関数についての理解を深める。また、三角関数の加法定理と、それから導かれる種々の定理について学ぶ。</li> </ul> <p>第5章 指数関数・対数関数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指数の拡張により指数関数および対数関数を定義し、関数についての理解を深める。また、指数関数・対数関数を具体的な事象の考察に活用することを学ぶ。</li> </ul> <p>第6章 微分と積分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「微分法」では微分係数・導関数の意味を理解し、接線の方程式や関数の変化の調べ方を学び、グラフの概形が描けるようにする。</li> </ul>
--	---

## 2. 指導計画

科目	項目	4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
数学Ⅰ	図形と計量(復習)		■																																		
	データの分析		■	■																																	
数学Ⅱ	式と証明			■	1 学期 中間 試験	■	■	■	1 学期 期末 試験										2 学期 中間 試験				2 学期 期末 試験													学 年 末 試 験	
	複素数と方程式						■	■																													
	図形と方程式															■	■	■																			
	三角関数																										■	■	■								
	指数関数と対数関数																													■	■	■					
微分法																												■	■	■							





教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理基礎	2	4年

## 1. 学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
使用教科書	「新編 物理基礎」(数研出版)
使用副教材	「リードα 物理基礎」(数研出版)
評価基準	<p>●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(関心・意欲・態度, 思考・判断, 観察・実験の技能・表現, 知識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。</p> <p>(1)授業への取り組み 授業に対する姿勢, 学習態度, 物理への関心等で判断する。評価の観点のうち, 特に関心・意欲・態度の項目を評価する。</p> <p>(2)ノートに記載内容 授業内容を適切にまとめているか, 科学的な思考ができているかなどを評価する。</p> <p>(3)観察・実験等 観察・実験等を行い, レポートを書く。観察・実験に対する姿勢, 予想や考察, 器具の操作, 報告書などから評価する。評価の観点のうち, 思考・判断, 観察・実験の技能・表現に関する配分が大きい。</p> <p>(4)教科書・問題集の問題 各問題への取り組み, 取り組んだ内容から評価する。</p> <p>(5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち, 思考・判断, 知識・理解に関する配分がもっとも大きい。</p>
学習内容	第1部「運動とエネルギー」 第2部「熱」 第3部「波」 様々な物理現象を観察, 実験などを通して探究し, それらの基本的な概念や法則を理解し, 物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

## 2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運動とエネルギー	運動の表し方												
	運動の法則												
	仕事と力学的エネルギー												
熱	熱とエネルギー												
波	波の性質												
	音												
				1学期中間考査	1学期期末考査				2学期中間考査	2学期期末考査			学年末考査

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学基礎	2	4年

### 1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造と電子配置を理解する。 3. 物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。 4. 酸と塩基の反応および酸化還元反応の基本的な概念や法則を理解できる。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 化学基礎」(東京書籍) 「改訂 化学」(東京書籍)
使用副教材	「ニューグローバル 化学基礎」(東京書籍) 「フォトサイエンス 化学図録」(数研出版)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	化学基礎 第2編：物質の変化 2章：酸と塩基 3章：酸化還元反応 化学 第1編：物質の状態と平衡 1章：物質の状態 2章：気体の性質

### 2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
物質の変化	物質量と化学反応式			1	1				2	2			学 年 末 考 査
	酸と塩基												
	酸化還元反応												
物質の状態と平衡	物質の状態			中	中				中	中			
	気体の性質			間	間				間	間			
	溶液の性質			考	考				考	考			
	固体の構造			査	査				査	査			

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎	2	4年

### 1. 学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 生物基礎」(東京書籍)
使用副教材	「リードα 生物基礎」(数研出版)
評価基準	行動観察、発言、発表、自己評価、レポート、ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	グループ型学習で授業を進め、教師の授業に加え生徒同士の教えあいにより生物の基礎知識の定着を行い、グループ全員が理解することを共通目標にした教えあいを通じてクラス全体で教えあう意識を高め、問題読解力の向上と理解の深化をはかる。

### 2. 指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月	
生物の特徴	生物の多様性と共通性			1 学 期 中 間 考 査		1 学 期 期 末 考 査					2 学 期 中 間 考 査		2 学 期 期 末 考 査					学 年 末 考 査	
	生物とエネルギー																		
遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA																		
	遺伝情報とタンパク質																		
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達																		
	免疫のはたらき																		
生物の多様性と生態系	植生と遷移																		
	生態系と生物の多様性																		

















